

# 学校教育目標改定にあたって

## 【学校教育目標改定の基本的な考え】

新しい学習指導要領が告示され、児童に育成すべき資質・能力が明確に示された。

周知の通り、予測困難な社会の変化に主体的に係わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要である。このため「生きる力」をより具現化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を次の3つとした。

- 1、何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・理解」の習得）
- 2、理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）
- 3、どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生にいかそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）

そこで、本校においても、これらの社会を生き抜くため、全ての教育活動において、児童が自ら積極的に取り組み、児童同士が協力し合い、切磋琢磨しながら、上記の資質・能力を身に付けて欲しい、という願いのもと、学校教育目標を改定した。

## 【学校教育目標の意味】

上記の改定の基本的な理由を元に、知・徳・体に添った目指す児童像の目標の言葉の始めに全てに、「自ら共に」という言葉を付けた。全ての教育活動に対して、「自分から進んで取り組む姿勢」また「共に助け合って生きていく力」を育てたいという願いからである。

また、具体的な3つの目標のうち、知の部分である「自らともに多くを学び」とは、基礎的・基本的な学力は勿論のこと、「主体的・対話的で深い学び」の授業を通して、自分から課題を発見し、友だちと助け合い、学び合いながら、多くを学んで欲しい、という願いと、「多く」の言葉の中に「学び方をも学ぶ」や「コミュニケーションの上手なとり方」という意味も含まれている。

2つ目の「心を磨き」とは、他人に対する思いやりの心「恕」の心を育て、お互いが向上できるよう、自分自身で心を磨いたり、互いに心を磨き合う。また美しいものを美しいと感動できる感性を育て、豊かな情操が育つようにという願いを込めてである。勿論この中には、いじめは絶対にいけない、ということもしっかりと含まれている。

3つ目の「体を鍛える」とは、人間が幸せに生きていくためには、健康でなければならない。そのためには、小さい頃から自分の体を鍛え、健康な体をつくるとともに、お互いが競い合いながら、様々なスポーツの基本を身に付け、自分の進路に生かすなど、豊かな人生を送って欲しい、という願いからである。